

提出日：令和 4 年 3 月 2 日
所 属：生命・環境科学部 臨床検査技術学科
氏 名： 松下暢子 職位： 教授
役 職：

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

臨床検査総論 1、2 については臨床検査の基本的検査項目の内、主に尿検査、糞便検査、髄液検査などの一般検査の術式、検査結果と異常値が出た時の疾患との関連について臨床経験に基づき講義を行う。さらに臨床検査総論実習、衛生、公衆衛生実習については授業で行った内容を実践し、理解することを目指し、実習の指導を行っている。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
臨床検査総論 1	臨床検査学科	必	2	90
臨床検査総論 2	臨床検査学科	必	3	93
臨床検査総論実習	臨床検査学科	必	3	93
総合臨床検査学演習	臨床検査学科	必	4	92
衛生・公衆衛生学実習	臨床検査学科	必	4	92
卒業論文	臨床検査学科	選	2~4	12

2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

臨床検査技師を目指す学生には、自らの学習によって得られる知識や技術がどのように社会に貢献できるのか具体的に理解することによって、学習の意欲を持ち続けていける人材になってほしい。高齢化社会の現代において、検査を受けることなく過ごす人はいまや皆無に等しく、疾患の早期発見のみならず、予防医学の観点からも臨床検査の意義は重要性を増している。しかしながら医療の進歩は目覚ましく、卒業後、常に新しい検査法、治療法を理解し働き続けることは困難である。そのために、生涯にわたり学習を続けることができる基盤を大学生活において培う手助けができるよう心がけ、努力していきたい。さらに卒業後においても生涯教育の場を提供しつづける場所として大学が存在できるように教員として尽力していきたい。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）

アクティブラーニングについての取組

授業では内容についての理解が得られるように、さらに主体性をもって学ぶことができるように、授業の後半に授業内容に関連した問題について各自で取り組んでもらっている。それまでの内容を再度振り返ることによって、講義内容への理解と知識の定着を目指す。さ

らに、その後の問題解説によって、不足している部分を自主的に補うことができるようにしている。また、コロナ禍の下ではない状況になったならば、是非小グループ学習にも取り組んでいきたい。

ICT の教育への活用

授業内容の定着を目指し、毎回の授業において、国試形式の小テストを行っており、その後、問題の解説を行っている。対面で登校してきた学生においては正答率で理解度を測っており、オンラインで授業に参加している学生においても meet を用いて行っているが、さらなる工夫が必要であると考えている。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A～C） B

②学生の理解度の把握（A～C） A

③学生の自学自習を促すための工夫（A～C） A

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A～C） A

⑤双方向授業への工夫（A～C） B

授業においては、臨床検査の概要について学ぶだけにとどまらず、検査の意義を理解するために背景にある疾患まで講義している。また現在の臨床検査を行うまでの病態の解明や検査方法の歴史などを複合的に紹介することによって理解を深めるよう努力している。さらに講義のみではなく、授業内に復習問題に取り組んでもらい、さらにその解説を行うことによって、理解が深まるように取り組んでいる。この復習問題への各自の取組を確認することによって理解度をはかることができる。さらに、毎回授業内容に関連した課題をだしており、その課題についてのフィードバックは次回の授業の最初に行うことによって知識の定着を目指している。また、学生からの質問を授業後にうけており、講義内での疑問などについてはその時間内に解消できるようにしている。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

国家試験の対策としては、授業内の復習問題の一部に国家試験の過去問題を使用しており、国家試験の内容やレベルについて2年時から理解できるようにしている。さらに、期末試験においても同様に国家試験と同様な形式と難易度のテストを行っており、その試験の準備を行うことによって早い段階から国家試験への取り組みを始めることができるようにしている。

5. 学生授業評価

今年度から赴任しており、授業評価については個別の返答数が少なかったが、「講義の最後に小問を解く時間があり、知識の理解度を確認できました。またそのあとに解説もし

ていただけなので復習に活用しやすかったです。」という意見がみられたため、今後も授業内における問題と解説については継続しておこなっていきたい。また meet の音声聴きづらいというコメントがあったため、こちらは音声が聞こえにくかどうか授業内で確認してパソコンの使用法で改善をおこなっていった。

6. 学生の学修成果

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

国家試験に向けて3年次の授業終了時においてある程度の理解ができているかを確認するような試験を行い、それが国家試験においてどのように反映されていくのかを理解させるような試みを検討していききたい。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

今年度より赴任したため、今後学生の成績向上、授業アンケートの改善を目指していききたい。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）

毎回参加している。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

臨床検査技師を目指す学生に自らの学習によって得られる知識や技術が今後どのように社会に貢献できるのか少しでも理解できるように授業をおこなっていきたい。そのためには検査の臨床的意義について疾患を中心に説明していき、さらには予防的観点からの意義についてもあわせて説明していきたい。その結果として国家試験の合格率を上げていききたい。また、生涯教育の場所としての大学の取組もおこなっていきたい。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

シラバス、小テスト、レポート課題、試験問題、教材（パワーポイント資料、授業内における復習問題とその解答を授業後に公開している）